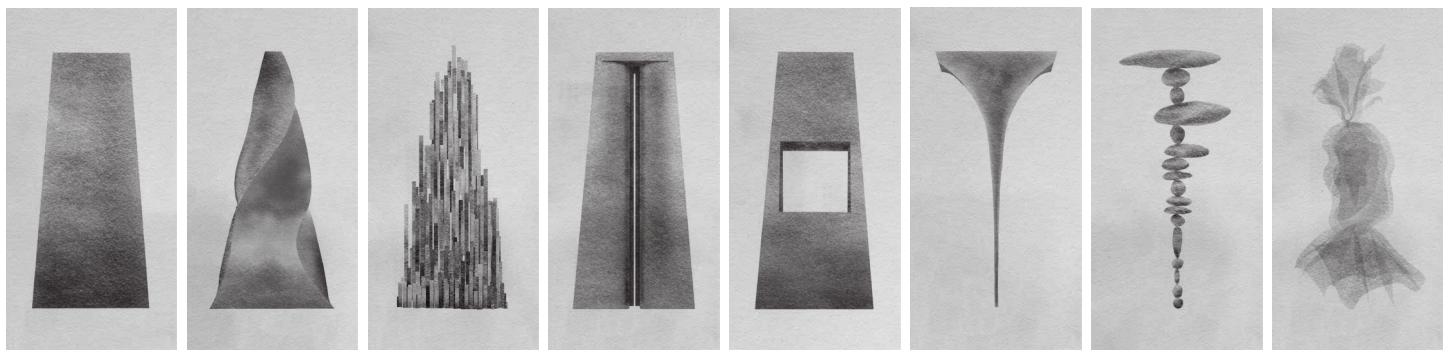
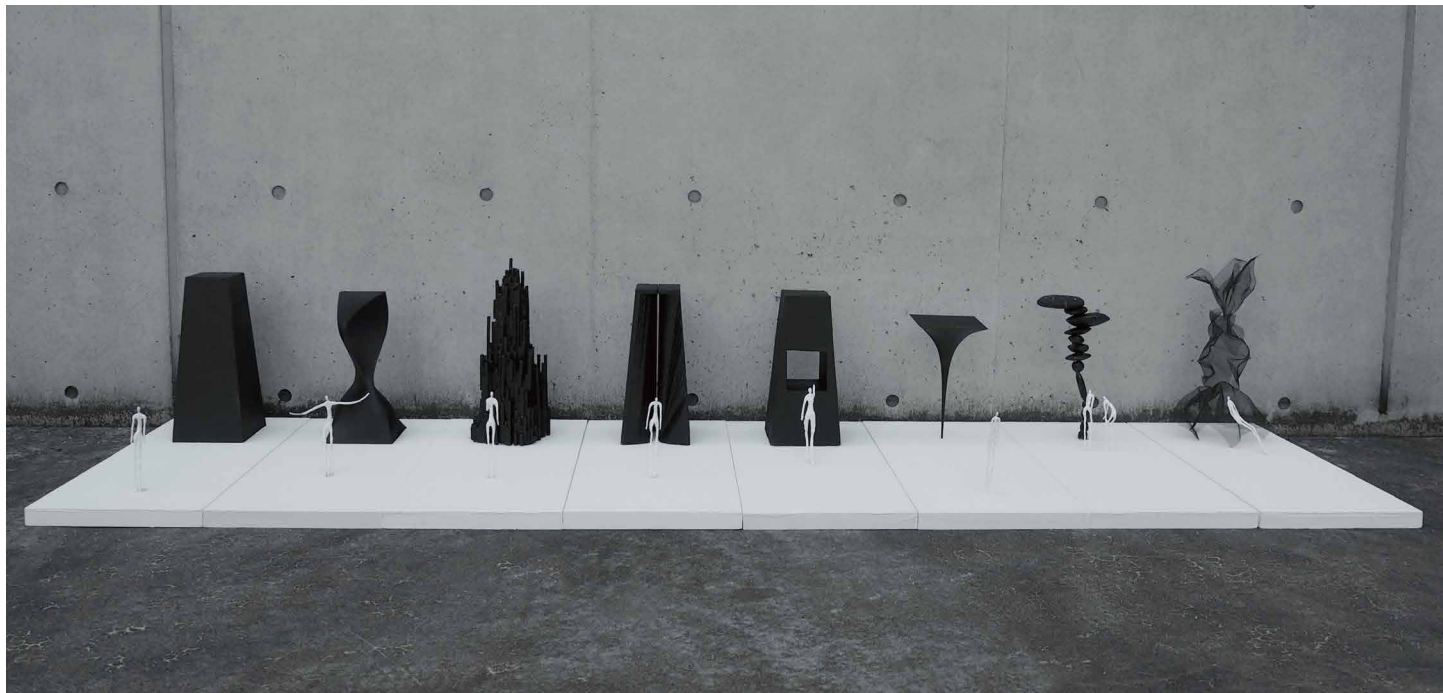


小林楓太
伊藤研究室

建築に擦り寄った記録

敷地：

用途：



これは、私が建築に触れていく中で感じたことを記録したものです。

自分の作品を残すことにこれほどにも惹かれていくとは、四年前の自分からは想像できないものです。

そして、建築が事の始めであったと感じます。

ただ何となく、建築を学び始めたけれど、建築に対して胸を踊らせ、痛めていた時間は大切なものでした。

（もしかしたら）今後、直接的な意味で、建築に頭を使うことがないであろう自分にとって、

これまでの感覚が薄まり、傍観者となるのが怖いと感じています。

一度触れてしまった建築は、離れても、何かのきっかけで動く、自分の中の違和感として残っていくと想像できます。

もう一度自分の中の建築と対話すると共に、今の新鮮な状態の感覚は、いつかの自分にとってどのように映るのか、

それを知りたいと思い制作しました。

建築に対して巡らせていた感覚あるいは感情に基づいて8つの立体作品を制作しました。

8つは時系列に並んでおり、一つ一つのまともりは大きな物体（建築）とそれに対応する身体から成っています。大きな物体を前にして、自分が演者となり、身体表現をしていることを想像しました。

未熟さ、切なさ、恥ずかしさ、尊さ、いつかの私が、今から何を感じ取り、何を見るのか。

違っているかもしれませんが、これが今の私なりの、建築と向き合うということでした。

